

動作をする人と敬意の向きを確かめる

図解と確認 | 学校文法の考え方

敬語は、話す相手だけでなく、話題になる人や動作の向かう相手との関係を表します。ここでは学校文法の基本となる三種類で整理します。

1 動作をする人

誰が、何をするのか。

→

2 敬意を向ける相手

誰を立てる表現なのか。

→

3 場面に合う形

尊敬語・謙譲語・丁寧語を選ぶ。

尊敬語

動作をする人を立てる。先生が見る → 先生がご覧になる。先生が言う → 先生がおっしゃる。

謙譲語

自分側の動作をへりくだって表し、その動作の向かう相手などを立てる。私が先生の話聞く → 私が先生のお話を伺う。

丁寧語

聞き手に丁寧に述べる。「です」「ます」など。明日は晴れる → 明日は晴れます。尊敬語や謙譲語と一緒に使える。

会話で比べる

生徒が友達に「先生はいらっしゃるよ」と言う場合、尊敬語が立てているのは先生。生徒が先生に「私が伺います」と言う場合、伺う動作をするのは生徒。

言い換えときの確認

見る人が先生なら「ご覧になる」、見る人が自分なら「拝見する」。主語や時制を変えず、問題で指定された言葉や形を使おう。

敬語を重ねればよいとは限らない

「おっしゃられる」は「おっしゃる」に整理できる。一方、「お読みになっていらっしゃる」は「読む」と「いる」を別々に敬語にした形。敬語が複数あるだけで誤りと決めない。

使い方 A で三種類を確認 → B で書換え → C で理由を説明 → D で確認。A～C は練習、D のみ 100 点です。間違えたら、動作主と敬意を向ける相手を書き添えて解き直しましょう。